

氏 名 田 中 弥 生
学位の種類 修 士 (看護学)
学位記番号 修 士 第 1 5 1 号
学位授与年月日 平成 2 4 年 3 月 9 日
学位論文題目 母子相互作用を促すためのベビーマッサージの効果
の検証

自律神経活動と精神健康度からみた評価

論文内容要旨

※整理番号	156	(ふりがな) 氏名	(たなか やよい) 田中 弥生
修士論文題目	母子相互作用を促すためのベビーマッサージの効果の検証 —自律神経活動と精神健康度からみた評価—		
<p>【目的】 正期産で生まれた児とその母親を対象に、ベビーマッサージの効果と自律神経活動と母親の精神健康度から検証することを目的とし、以下の3つを仮説をたてた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベビーマッサージを受ける児は、マッサージ後に快刺激を反映する心拍数、LF/HF が低下、HF が上昇、唾液アミラーゼ値が低下する。 2. ベビーマッサージを実施する母親は、マッサージ後に快刺激を反映する心拍数、LF/HF が低下、HF が上昇、唾液アミラーゼ値が低下する。 3. ベビーマッサージにより、児の睡眠覚醒リズムの確立が促され、母親の精神健康度が上昇し、育児負担が減少する。 <p>【方法】 対象は、正期産、単胎で出生し、その後の経過が順調な生後3ヶ月児とその母親マッサージ群22組、対照群25組とした。調査は3ヶ月時とその1ヶ月後の5ヶ月時の計2回実施した。1回のマッサージの効果と短期的効果とし、3ヶ月時のマッサージ前後の母児の心拍数、LF/HF、HF、唾液アミラーゼ値を比較した。1ヶ月間のマッサージの効果と長期的効果とし、3ヶ月時のマッサージ前後と5ヶ月時のマッサージ前後の心拍数、LF/HF、HF の変化量、唾液アミラーゼ値の変化率を比較した。児の睡眠覚醒リズムは、睡眠状況をマッサージ群、対照群の2群で比較した。母親の精神健康度は、5ヶ月時の日本版エジンバラ産後うつ病自己質問票 (EPDS) の高得点群の割合、睡眠状況、3ヶ月時と5ヶ月時の日本版 POMS 短縮版 (POMS) 得点を比較した。</p> <p>【結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベビーマッサージを受ける児は、マッサージ後に快刺激を反映する心拍数、LF/HF、唾液アミラーゼ値が有意に低下せず、HF は上昇しなかった。 2. ベビーマッサージを実施する母親は、マッサージ後に快刺激を反映する心拍数、LF/HF、唾液アミラーゼ値が有意に低下せず、HF は上昇しなかった。 3. 5ヶ月時のマッサージ群、対照群の児の睡眠覚醒リズムは、3ヶ月時に比べて促されていたが、2群間で差はなかった。5ヶ月時のマッサージ群の母親の精神健康度は、POMS「怒り-敵意」の1尺度のみ有意に低下した(p=0.01)。 <p>【考察】 マッサージを受ける児にとって、マッサージを実施する母親にとって、マッサージの快刺激を自律神経活動から明らかにすることはできなかった。しかし、不快刺激を与えるほどのものでもないことが示唆された。一方、1ヶ月間マッサージをすることで、育児に対する母親の精神健康状態は安定したことから、ベビーマッサージは母親の精神健康度を上昇させることが示唆された。このことから、児とふれあうベビーマッサージは、児への愛着を増加させ、母子相互作用が促されることにつながると考える。また、母親が児を抱くことは、母親自身に快刺激をもたらすことが明らかになった。母親は児を抱くことで、児への愛着が増し、母子相互作用が促されると考える。</p> <p>【総括】 ベビーマッサージの効果と自律神経活動から明らかにすることはできなかったが、マッサージ中の児の反応を通して、母親の精神健康度は上昇した。よって、ベビーマッサージは母子相互作用を促す育児支援の1つとして、提供できると考える。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)

2. ※印の欄には記入しないこと。